

おいしい土が育てた おいしい野菜

まるで実家に帰った気分！みんなでのんびりとおいしい時間を過ごしませんか？

映画『100年ごはん』上映会

& 食事会 & 大林千茱萸監督トークショー & オープンガーデン
@ダイネガーデン



大林千茱萸
監督作品

過去を生きた、生きとし生けるものたち。
いまを生きた、生きとし生けるものたち。
未来を生きた、生きとし生けるものたち。
「100年単位の仕事」に携わる人々の物語。



© 2013-2016 『100年ごはん』製作委員会 株式会社 TM エンタテインメント



とき

2016年2月3日(水) 節分

- ひるの部 ● 11:00 開場 11:30 上映開始
- オープンガーデン ● 14:00 ~ 17:30
- よるの部 ● 17:30 開場 18:00 上映開始



ところ

Dein Garten
ダイネガーデン



参加費

おひとり 2,500 円

【スケジュール詳細】

- ひるの部 ● 30席限定
11:00 開場
11:30 ~ 12:40 映画『100年ごはん』上映
12:40 ~ 13:10 お食事
13:10 ~ 14:00 監督トークショー
- オープンガーデン ●
〈ひるの部〉終了後から〈よるの部〉会場前にお時間のある方は畑見学などをおたのしみください
- よるの部 ● 20席限定
17:30 開場
18:00 ~ 19:10 映画『100年ごはん』上映
19:10 ~ 19:40 お食事
19:40 ~ 20:30 監督トークショー



ダイネガーデンのこと

吉野川北岸・第十堰近く、藍を育ててきた肥沃な土地。石窯のある家庭菜園が“あなたの庭”ダイネガーデン。農薬や化学肥料に頼らない土をベッドにハーブからジャガイモまでがのびのび育ち、ジャムや味噌、漬け物などの保存食や、野菜そのものの持つ力を活かしたおいしい料理の生まれる場所です。春にはカモミールが、秋にはコスモスが咲き乱れ、夏にはすだちが、冬にはレモンも元気に実ります。

うすき

臼杵ほんまもん農産物

× ダイネガーデンの野菜のハーモニー

食のこれからを考える映画『100年ごはん』を**観て**

野菜そのものの力を活かした料理を**味わって**

映画『100年ごはん』の大林千菜英監督の話を**聞いて**話して

ダイネガーデンに育つ野菜や花に**触れて**感じて

臼杵の堆肥や、新しい出会いを**お持ち帰り！**

観て

味わって

聞いて

触れて

持ち帰ろう！

監督 おおばやし ちぐみ 大林 千菜英



【プロフィール】

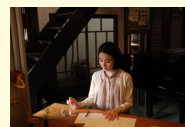
映画家・料理家。3歳から映画館に通い、10歳で『キネマ旬報』誌上で文筆業開始。11歳で『HOUSE / ハウス』（大林宣彦作品）原案を担当。以降、媒体無制限に執筆活動中。広く食文化を探究するため料理とマナーを学ぶ『西洋食作法と美食の教室』主宰。facebook【ホットサンド倶楽部】部長。2015年には『マツコの知らない世界』（TBS）にホットサンドブームの火付け人として出演。著書に『未来へつなぐ食のバトン—映画『100年ごはん』が伝える農業のいま』（筑摩書房）、『ホットサンドレシピ100』（シンコーミュージック）、『リュック・ベッソン』（キネマ旬報）ほかがある。

● 物語
「新しいけれど、昔から大切なこと。健全な魂は、健康な食べ物から。健康な食べ物、健全な土から」。無化学合成農業・無化学肥料の野菜作りを推進する大分県臼杵市は、2010年に、草木8割、豚糞2割を主原料とした堆肥を製造する「臼杵市土づくりセンター」を開設。慣行農業から有機農業に転換する生産者や、あたらしく農業をはじめ市民が現れる。そしてマーケットの現状は？ 消費者は？。将来的には子どもたちの給食を臼杵の野菜でまかないたい。全国でもはじめての試みに試行錯誤しながらも、臼杵市と市民たちが前へ向かってゆく姿をとおし、現代の「食」にとつて何がほんとうに大切なことを考える、ワタシから「アナタ」へ宛てたメッセージ。



● 映画解説
はじめの1歩は100歩分！ 革新的な農業方法をめぐる大分県臼杵市の人びとの記録映画。やがてその取り組みは農業だけではなく、林業、教育、給食センターや飲食業、NPOへと繋がり、人びとの暮らしの中へと広がってゆく。ドキュメンタリー映画の枠を超え、「いまのワタシ」（近衛はな）が「100年後のアナタ」（大谷賢治郎）に語りかけるといふドラマを編み込むことで、「過去」「いま」「未来」は地つづきであることが、立体的に浮かび上がる。特出したヒーローをあえて設けず、自然との共生「リビング・ハーモニー」をめぐる人びとを描いた群像劇。料理家でもある大林千菜英監督は、この作品のために4年間臼杵市に足を運び、撮影素材は120時間。音楽には数多くの映画音楽で活躍する山下康介。主題歌に宮武希。映画館や映画祭で上映のほか、誰もが主催者になれる「映画十食事トークセッション」という、毎回が一期一会の《五感で味わう》上映会を、日本各地をはじめ、スリランカ、ハワイ、アメリカ（LA/NY）など120箇所以上で展開中。この上映方式が「食育の最前線」として話題となり、「未来へつなぐ食のバトン」——映画『100年ごはん』が伝える農業のいま——として筑摩書房より書籍化。

「ワタシが住む臼杵市が、新しい試みをはじめました」。有機農業をめぐる「はじめのはじまり」ドキュメンタリー。



『100年ごはん』のこと

『100年ごはん』公式 HP ▶ <http://100nengohan.com/>

上映活動・コンタクトは facebook ▶ 「大林千菜英 / Chigumi Obayashi」まで！